

面では防共協定が死滅しドイツは公然たる對支武器輸出者となるであらうから、獨ソ不侵略協定は支獨關係の再接近を齎すかも知れぬと述べた、又たこへロシアの支那援助が増大することがあつても、日本軍のソ聯國境に於ける挑發は意を足らぬ、何となれば既に支那で手を焼いてゐる日本軍部は樞軸國の支持なくしてソウエートに對し重大な軍事行動を開始することはあるまい、過去に於ける日本の對ソ挑戰的態度は一部ローマ、ベルリンの防共協定に對する信頼に基づくものである。又或る支那人はイタリが「再び窮地に置去りにされた」と指摘し、イギリスはイタリをドイツより引離すことに努めるだらうと豫言した。第一の問題は「ロシアがドイツの敵對行爲を控へるといふ約束（がされたとして）から反對に何を得たか」といふ問題であるが、多くの者はドイツがソ日戦争の場合日本を援助しないといふ約束をロシアに與へたのではないかと怪しんでゐる、イタリが日本海軍力の地中海に於ける援助を希望して熱望してゐた日本の獨伊軍事同盟無條件參加問題に對しドイツは常に微温的だつただけに之は十分可能性あることであると述べてゐる。

内閣情報部八・二五

情報第六號

遣獨使節黨大會出席中止か

同盟來電一不發表

ベルリン二十四日安達同盟特派員發

在ベルリン日本人筋ではドイツ今回の獨ソ不可侵條約締結に關聯して寺内、大角兩大將、藤原、井坂兩財界代表等遣獨使節一行のニュルンベルグ黨大會出席中止説が有力化してゐる。

285

内閣情報部八・二五 情報第七號

重慶露語放送 (二十三日)

(大阪逓信局竊取)

新聞論説「獨ソ不可侵條約締結に關する中朝紙の論調に就て」

中國各紙は獨ソ不可侵條約に就て夫々批判を下して居るが、ユンセンペー紙は二十三日の社説で「獨ソ不可侵條約締結はまさに一九三九年の國際政局に與へた一大事件となるものである。即ち國際政局は實に一大變轉を來したといつていいのである。此の條約締結發表は實に突發的事件ではが與へた衝撃は英佛兩國に對し極めて強烈なものである。兩國はソ聯との間に三國協定の交渉中にあつたもの故その衝撃はまさに強大であつた。

英佛兩國は是を以て西方への一大威嚇はいよいよ酷烈となり佛國は佛ソ條約の頼む可らざるを完全に見せつけられたものとし、ソ聯の平和維持、集團的平和保障政策に對し兩國は疑義を抱くに至つた。

日本軍部はこの報道に依て周章狼狽し電聲的警愕をしてゐる。最近の事件に於て此の事件程全世界を衝動せしめたものはない」と。

上海……紙は「獨ソ不可侵條約は世界の各國を震撼せしめて居るが、滬東支那に取つて如何なる反響をなすかと願してまづ上海銀行商業界には一般に好感を以て迎えられて居る。